

NPO 法人
青春基地➤

Annual Report
2024.04～2025.3



【1】MISSION / VISION

生まれ育った環境をこえて、
一人ひとりが“想定外の未来”をつくる

Going beyond your upbringing:
Within You, Infinite Future.



【2】活動概要

公立高校における長期プロジェクト

プログラムの提供だけでなく、3～5年間の連携協定を結ぶことで、授業づくりだけでなく、チームマネジメントやビジョンづくりなど包括的な学校づくりに取り組んでいます。



1校につき、年間100～300人のメンターが参画

約8000人の中高大生にプログラムを提供

※2017年から2024年12月末現在のみ算出

多様な学生や社会人を巻き込みながら、探究や課題研究、修学旅行のなかで生徒の個をひきだす起爆剤として、スポットでの授業も届けています。



その他：社会変革事業

教育の再定義にむけたアプローチを模索するべく、研究や新たなプロトタイプを立ち上げる「TANKEN」や、企業やソーシャルセクターと連携した社会変革プロジェクト、企業と大人の越境プログラム「SOTEIGAI」などに取り組んでいます。（SOTEIGAIは現在休止中）また現在は、一般財団法人三菱みらい育成財団「地域別交流会」の企画設計を行い、全国の教育関係者を対象としたコミュニティデザイン、ワークショップを実施。

NTT DATA
NTTデータ システム技術株式会社

Microsoft

ELAB
一般社団法人

長野県
Sagami Prefecture

学びプロジェクト
roku you

atelier shimura

社会創発塾
Social Emergence School

foda
学びの力で未来を創造する

ほか



学校プロジェクト

年間467名、地域を超えて多くの学校と出会う

概要

今年度は、都立第四商業高校を中心に、年間を通じたカリキュラム協働を行うプロジェクトを実施。そのほか、様々な地域の公立高校、合計467名の生徒たちと出会い、共に時間を過ごしました。

都内の公立高校3校や千葉県の高校1校でも実践を行い、青春基地として大切にしている「生成」的な学びを、より多様な環境の生徒たちに届けることができました。

また、学校外の地域の人々とのつながりや、他大学の研究室との共同実施など、活動の幅もこれまで以上に広がった1年でした。さまざまな地域・環境に飛び込んだからこそ、青春基地のプログラムづくりにかける熱量やプロセスが、どのように現場に反映されるのかを肌で実感することができました。

どんな場所、どんな生徒たちであっても、「個」がいかにされることで「想定外」は生まれる。そんな確信をあらためて深めた1年でもありました。



都立青梅総合高校(定時制)にて



千葉県立松戸向陽高校にて

カリキュラム協働の学校では、新たなプログラム作りに奔走



今年度は、年間を通じたカリキュラム協働（全12回）をメインに実施。普段行っているコラージュや対話だけでなく、新たなプログラムづくりに挑戦していました。一部にはなりますが、ご紹介いたします。

「フィールドワーク in 富士見台本町通り商店会」

「学校に通って3年目になるけど、駅と学校の往復しかしたことない!」という生徒の声を聞き、企画したワーク。富士見台本町通り商店会で、普段通り過ぎるお店の人々に生徒たちがインタビューを行いました。インタビューを通して、地域の人々の温かさや、お店のユニークな魅力に触れ、今まで目を向けてこなかったまちのおもしろさに気づくことができたようでした。

「まちいろクレヨンづくり」

慶應SFC・石川初研究室とのコラボレーションワーク。学校周辺の「まち」から、自分が気になった色・好きな色を水彩絵の具で再現し、最終した後、同じ色のクレヨンを作っていました。

「ZINEづくり」

1年を通して行った授業の一番最後に実施したワーク。生徒たちの好き・これいい!を「ZINE」という手法で表すことにチャレンジしてしました。インターン生との対話の中で、自分の表現したいこと・ものを発酵させることで、上手い下手を気にせずに、自由に表現することができるような組み立てで行いました。

※KDDI財団による助成を活用した実施・研究

OG・林歩実さんの勤務校での授業実施

今年度は、青春インターンOGの林歩実さんの勤務校・千葉県立松戸向陽高校にて、全4回の探究プログラム内の、2,3回目という形で、コラージュワークショップを実施しました。5クラス同時実施ということで、久しぶりのインターン生やプロボノの方にもお越しいただき、やり遂げることができました。何より、このような形で卒業生と関わりを持つことができて嬉しかったです。



オトナ向けの学びづくり

子どもと共に大人も学ぶ。

三菱みらい育成財団「地域別交流会」「リアル交流会」

【三菱みらい育成財団_地域別交流会（参加者 175名）】

7月には、三菱みらい育成財団の助成先を対象にした、地域別交流会を実施。（詳細は[こちら](#)）
前回は引き続き、参加者同士がより近く、より自由に繋がっていくことを目指し「参加者」の”コミュニティになる”というコンセプトのもと計6地域による開催の設計・運営を行いました。会場全体を混ぜるべく、お楽しみクエスチョンを入れた自己紹介へアップデートする等、新しい取り組みにもチャレンジしました。また今回は、新スタッフの青木や、今年度がラストイヤーのインターン生・田口さんにもメインファシリにチャレンジしてもらいました。今後の開催も見据え、ファシリ人材の発掘や研修等のサポート体制も強化していきたいと思っています。
今回の参加満足度は平均9.1（10段階）。今年8月末にも実施予定で、会場数や定員数を広げて開催する予定です。

【三菱みらい育成財団_リアル交流会（参加者 95名）】

2月には、石黒和己研究員がメインファシリテーターを務めるリアル交流会を実施。青春基地はサポートとして、プログラムの企画・運営として参画しました。参加者自身の教育に対する想いや価値観を深ぼり、同じ志を持った他者と自由につながることを、ねらいに置いているこの交流会。今回は、より参加者の対話を醸成させるために、「各テーブルにテーブルファシリテーター配置し、参加者の声を取り上げる・かき混ぜる・深める仕掛けを作る」「立場や肩書きで判断しないように、敢えて肩書きを伏せて会を進行する」「自分の視点から一旦離れて、様々な立場の人のメガネをかけて考えてみるための、なりきりワークを取り入れる」などの新しい取り組みにもチャレンジしていきました。その甲斐あってか、終了後のアンケートの自由記述欄には、参加者からは興味深いコメントがたくさん寄せられました。

Pick up!
1年を振り返って



代表 佐野真知子

今年度は、目標としていたカリキュラム協働で青春基地として大切にしている「生成の教育学」をベースにおいた学びづくりに奮闘することができました。生徒たちの一瞬一瞬の変化に先生方と立ち会えたことは何よりの喜びです。また、リフレクションの中でより一層感じたのは、この学びをどう昇華させ、公教育への新たなチャレンジを仕掛けていけるのか、ということです。内側の世界を面白くする、そのことにワクワクしています。2025年度も楽しむぞ！



スタッフ 青木若菜

青春基地にジョインさせていただいてから1年がたちました。数えきれないほどたくさんの方の現場に立ち会わせていただき、右も左もわからなかった時よりかは、成長できたのではないかなと思います。同時に、このおもしろい取り組みを、もっと多くの人に知ってほしい！と強く思うようになったので、広報業務の舵取りもできたらなと思っています。



毎年恒例の全社会議
「セイジュンキャンプ」in小布施！
卒業セレモニーの様子です。

2024年度収支報告(2024.4.1-2025.3.31)

収入	受取会費（正会員／賛助会員費）	¥62,000
	受取助成金等	¥3,849
	事業収益	¥9,907,278
	その他（利息等）	¥3,512
収入合計		¥9,976,639
支出	事業費	¥9,085,033
	管理費	¥676,142
支出合計		¥9,761,175
収支	当期正味財産増減	¥215,464
	前期繰越正味財産	¥3,289,850
	次期繰越正味財産	¥3,505,314

特定非営利活動法人 青春基地

〒170-0005 東京都豊島区南大塚3丁目36-7

南大塚T&Tビル6階 コワーキングスペース

NPO法人青春基地宛

MAIL：info@seishun.style

公式HP：http://seishun.co

NPO法人

青春基地